科目名	ミクロ経済学Ⅱ　　Microeconomics II						
科目担当者	宮下 稔規　　MIYASHITA Toshiki						
単位数	2	配当年次	1年	授業形態	講義	開講学期	後期
履修学部・学科［区分］ 他学部他学科履修	経営学部・経営学科［専門教育科目　基礎専門科目］ 法学部・法律学科［専門教育科目　関連科目］					ディプロマポリシーとの関連	(4),(2)
授業の概要	ミクロ経済学Ⅱではより発展的な市場の分析、特に市場では効率を損なってしまうケースについて学習する。第一に不完全競争に関するモデルの独占企業の行動や寡占市場について学習する。次に外部経済、外部不経済が発生している市場の特徴を学習する。また，一般均衡分析を行い自由な意思決定における市場均衡は効率的であることを示す。その後に公共財や期待効用理論、ゲーム理論を学習し自由な意思決定では効率性が達成できない状況に関する学習を行う。 本授業においては要所で数学を用いることがある。授業内で適宜復習を行い全員が理解できるよう配慮は行うが、経済数学等を履修していることでより深い理解へとつながる。						
授業の到達目標	① 独占企業の最適生産量と市場で発生する死荷重を説明できる。 ② 寡占市場の特性について理解し、クールノーモデルの解を導出できる。 ③ 外部性が発生している市場での余剰分析を行い、市場で発生する非効率を説明できる。 ④ 一般均衡分析について理解し、厚生経済学の第一基本定理について説明できる。 ⑤ 公共財の性質について理解し、公共財供給が市場の失敗を招く理由を説明できる。 ⑥ 期待効用理論について理解し、不確実性下での合理的な意思決定を導ける。 ⑦ ナッシュ均衡を理解し、囚人のジレンマの状況を説明できる。						

授業計画・内容		
	1	ガイダンスとミクロ経済Ⅰの復習
	2	企業の費用関数
	3	利潤最大化行動①　完全競争市場
	4	利潤最大化行動②　独占市場
	5	独占市場と余剰分析
	6	寡占市場とクールノー競争
	7	外部経済・外部不経済とピグー税
	8	これまでの復習と中間課題
	9	純粋交換経済と一般均衡分析
	10	厚生経済学の第一基本定理
	11	公共財
	12	期待効用理論
	13	逆選択とモラルハザード
	14	ゲーム理論
	15	まとめ

授業外学修 (事前学修)	教科書の該当部分を読み込み、専門用語など独学で理解できなかった箇所をまとめておくこと。（毎週 2 時間程度）
授業外学修 (事後学修)	授業内で扱った内容や練習問題を中心に復習を行うこと。 特に練習問題に関しては自分一人で解くことができるように復習を行うこと。 （毎週 2 時間程度）

成績評価方法・評価比率・到達目標との対応	成績評価方法	評価比率	到達目標との対応
	中間課題 期末試験	40% 60%	①②③ ①②③④⑤⑥⑦

成績評価基準	秀：（評点 90 点以上）到達目標を極めて高い水準で達成している場合 優：（評点 80 点～89 点）到達目標を高い水準で達成している場合 良：（評点 70 点～79 点）到達目標を一定の水準で達成している場合 可：（評点 60 点～69 点）到達目標を最低限の水準で達成している場合 不可：（評点 60 点未満）到達目標に達していない場合
教科書	ダロン・アセモグル，デヴィッド・レイブソン，ジョン・リスト 著，岩本康志 監訳 『アセモグル/レイブソン/リスト ミクロ経済学』，東洋経済新報社
参考文献	神取道宏 著『ミクロ経済学の力』，日本評論社 資格試験研究会 編『新スーパー過去問ゼミ 6 ミクロ経済学』，実務教育出版
その他	ミクロ経済学Ⅰや経済数学Ⅰを履修済みであることが望ましい。公務員試験で経済学が必要となる学生はこの授業を履修することを強く薦める。